ぴーちく ぱーちく

2018.6.28 発行

第86号

〒569-0082 大阪府高槻市明野町 10-15
ぷりんせす明野１Ｆ
編集･発行 ＮＰＯ法人自立支援センターたかつき

TEL:072-672-1294 FAX:072-668-3210
MAIL:wffcj830@yahoo.co.jp
URL: http://ciltakatuki.web.fc2.com/

1型糖尿病障害年金裁判にいってきました

6/1（金）大阪地裁で、１型糖尿病障害年金裁判を傍聴してきました。参加させていただいて、私は「おかしい」と思いました。どうしていとも簡単に年金打ち切りという人の生き死にに関わることを出来るのかと?!今回のような事を許していたら、私達の年金も簡単に切られるんではないかと恐怖を感じました。

裁判後、弁護士会館で報告集会に参加しました。弁護士さんの説明を聞いても、やはり年金が何故打ち切られたのか納得いかず、難病、内部障がい者の方のしんどさを、国は全然理解してないと強く思いました。この国に生きて毎日おかしいと感じています。1型糖尿病患者の方もこの国に生活していて、不合理を感じていると思います。

今後の裁判の中で、どう国が言ってくるのかが分かりませんが、絶対に勝訴で無いとおかしいです。

私達身体障がい者にも関係ない問題ではないのです。難病、精神、内部障がい、身体障がい、あらゆる障がい者と共にこれからも連帯できたらと思いました。そして私達は、もっともっと１型糖尿病をはじめとした内部障がいの事を勉強し、障がい種別の壁を打ち破って共に闘っていきたいと思いました。

次回の９/12も是非とも参加したいと思います。（斎藤雅子）

※１型糖尿病障害年金裁判とは

自己免疫の異常などによってすい臓の機能が破壊され、生涯にわたり血糖を管理しなければならない病気である１型糖尿病。この１型糖尿病をもつ方々が、障害年金を打ち切られ、またその明確な理由の説明もなされなかったのは違法だとして、国を相手取って起こした裁判です。

訴えを起こした方々はこれまで、障害年金2級に該当し年金を受給してきました。しかし平成28年に、国から「障害年金3級の状態にある」と判断され、年金の支給が打ち切られました。病気が良くなった事実はなく、また年金制度上の障害認定基準にも実質的な変更はありませんでした。にも関わらず、なぜか、判定が変更され年金が打ち切られたのです。

我々が傍聴した回では、患者側から、国は障害等級を３級に変えた具体的な理由を法廷で明らかにすべきという主張がなされていました。

《参考》
『１型糖尿病障害年金裁判』
フェイスブックページ

糖尿病 年金 裁判
で検索してみてください

京都市の事業所連絡会に参加しました

5/28（月）京都市内にある障害福祉事業所の連絡会（居連協）に行ってきました。我々のお目当ては「共生型サービス」についてのシンポジウムでした。

「共生型サービス」とは、これまで介護保険、障害福祉のどちらか一方だけの指定しか受けていない事業所がもう片方の事業指定を受けやすくするという制度で、いわゆる「65歳問題」と「介護人材の減少」に対応するため、作られた制度だそうです。

簡単に善し悪しを判断できるような問題ではありません。ただシンポジウムで強調されていた、「介護保険に問題なく移行できる人とそうでない人を個別的に丁寧に検討していくためのガイドラインを作るべき」との意見は、とても大きなヒントではないかと感じました。

そもそも国は 2010年に、障害者自立支援法違憲訴訟の基本合意文書で「介護保険優先原則を廃止すること」を約束しています。この約束がなし崩し的に無かったものになる危険性はありますが、高齢障害関係なく、困りごとを抱える人たちに対して、私たちに何ができるのかを改めて考える重要なきっかけとなりました。（いづつ）

名古屋城エレベーター問題で デモ行進に参加しました

6/19（火） 名古屋城の木造天守閣にエレベーターを設置しないという名古屋市の意向に対する、抗議集会とデモ行進が行われました。

当日の名古屋は、雨の予報だったのにかんかん照りだったそうです。

来月詳細を報告します。

さてさて、「あら！ほぉ～な人生」椿本の２回目をお届けします。

前回のあらすじを軽く…1978年7月20日、私は仮死状態で産まれ、医師から「九分九厘諦めください。」と言われた。その後、祖母は保育器に入れられていた私を「どうせ死ぬならこんな箱に入れとかんでも…」と、勝手に保育器から出し、母の横に寝かせてくれたのだ。

すると、劇的ビフォーアフターではありませんが、「なんということでしょう！」

絶えなかった体の痙攣が、次第に治まっていったのです。死んだのか？

いえいえ、そんなはずありません。死んだなら今私はこれを書けていません。私は、生後間もなく三途の川に行きかけたのを、幸いにも追い返されたのです。後に祖母は「保育器から出したのがよかったんだ」と自分の手柄のように話していたのを覚えている。

翌日、再び髄液を取ると、血の混じりはなく、医師から「持ち直しました、(生存率は)五分五分です」と言われた。私は奇跡の生還を果たしたのです。祖母が言っていたことはあながち間違いではないかもしれませんw

その後は、穏やかに育ち退院の日を迎えました。そこで医師から不可解な一言が…！！

母に向かって「育てる自信がなかったら(私を病院に)置いて帰っていいですよ」と言ったそうな。障害があると診断されたのはもう少し後でしたが、医師はこのとき何らかの障害が残ることをわかっていたのかも知れません。

母はその言葉を断り、私を連れて帰ってくれました。もし置いていかれてたらどうな

っていたか、施設か、うまく葬られていたのかもしれません。そう考えると、ゾッとします。

しかし、同じ日に生まれたいとこと比べていたのか発育がおかしいと母は思い、生後10か月のころＣＴをとり、「脳性まひ」と診断されたのです。ＣＴでＣＰ(脳性まひ)がわかった～(笑)こうして私の障害者人生が幕を開けました。「もし障害がなかったら」と幼少期に考えたこともありますが、障害がなければ椿本博紀でないと、最近よく思うところです。

今回はこれにて！

さ～て、次回の「椿本くん」はー

『博紀です、梅雨でジメジメ暑い季節ですね。さて、次回はー、

- 博紀　保育所見学、そして入所
- その背景にあったもの
- どこの家にも父はいないと思っていた

の３本です。その前に来月は大同さんのヒストリーをお楽しみください。』

《文：椿本博紀　写真：服部幸樹》

自立支援センターたかつき～わたしたちが、やっていること～

・**重度訪問介護従業者養成研修**：年に2回（9月と3月ごろ）研修を行っています。

・**ピアカウンセリング**：当事者同士でお互いの気持ちを共感・共有します。

・**自立生活プログラム(ＩＬＰ)**：宿泊体験・外出体験・料理体験など自分の自立生活に必要な知識や経験を身につけていきます。

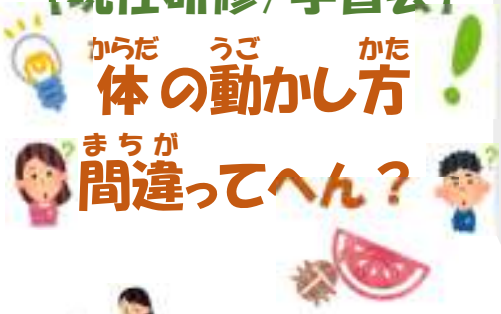
・**自立体験室**：実際にヘルパーを使って生活をする体験ができます。誰でも使えるので気軽に声をかけてね。

・**相談・情報提供**：障がい者の生活に必要な情報の提供を行い、相談にのります。

・**障がい者 自立フォーラム(地域活動支援センターⅢ型)**：日中に集い、障がいを持つ仲間や、友人作りの場として活用して下さい。私たちと一緒に自分探しをしませんか?

その他、お花見、ビアガーデン、クリスマス会などの交流の場をみんなで考えて計画しています。お気軽に遊びに来てください！

【現任研修/学習会】



次回は「体の動かし方 間違ってへん？」です。介助が楽になる体の動かし方を練習してみましょう。その他知りたいことを話し合いましょう！

日時　2018年7月27日（金）17：00～19：00

場所　当事業所事務所にて

申込は、自立支援センターたかつき（072-672-1294）まで

※当日参加も可。ヘルパーさんへは、2時間分の研修参加費、交通費が支給されます。ヘルパー、利用者以外の方も参加大歓迎！

6/18の地震、皆さんは大丈夫だったでしょうか？

私は本当に怖かったです・・・・・

今後に向けて心の準備、大事な物をいつでも持って行かれるように準備をしておきましょう。そして今回の震災で被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

斎藤雅子

7月のフォーラムの予定

☆毎週木曜日はクラフトの日！

カワイイ手作り品作り、お気軽にあそびに来て下さい♪

クラフト体験は7月5日　はじめての方無料（2回目以降500円）

☆「Mディー」7月はおやすみです～

プラバン作り（ドリンク付き）300円です

◎お問い合わせは自立フォーラムまで

ＴＥＬ：０７２-６７２－８５３２